

国際バカロレア (IB) ディプロマプログラム (DP) 科目概要

「芸術」：「美術」— 標準レベル (SL)

2016年第1回試験 — 2022年最終試験

IBディプロマプログラム (DP: Diploma Programme) は、綿密に構成され、高い学業レベルを要求する一方で、教育的にバランスのとれたプログラムです。16歳から19歳までの生徒を対象として、大学での学問やその後の生涯で成功できる人間になるための素養を養います。DPは、知識豊かで探究心に富み、思いやりと共感する心をもつ人間の育成、また、多様な文化の理解と開かれた心の育成に力を入れており、さまざまな視点を尊重し評価するために必要な態度を育むことを目指しています。DPの「指導のアプローチ」と「学習のアプローチ」(ATL: approaches to learning) は、熟慮されたストラテジーやスキル、態度として、指導や学習の場に浸透しています。DPでは、思考スキル、リサーチスキル、社会性スキル、自己管理スキル、コミュニケーションスキルという5つのATLカテゴリーのスキルを発達させます。

幅広く深い知識と理解を得られるようにするため、生徒は、1) 自分が最も得意とする言語、2) 付加言語、3) 社会科学、4) 理科、5) 数学の各グループから少なくとも1科目を選択する必要があります。さらに、グループ6から芸術の科目を1科目、またはグループ1～5のいずれかから2つ目の科目を選択することができます。選択した科目のうち、最低3科目(最大4科目)を上級レベル (HL: higher level) (推奨授業時間: 240時間)、その他を標準レベル (SL: standard level) (推奨授業時間: 150時間) で履修します。これらに加えて「課題論文」(EE: extended essay)、「知の理論」(TOK: theory of knowledge)、「創造性・活動・奉仕」(CAS: creativity, activity, service) の3つの「コア」要素があります。「コア」科目は必修で、DPの理念の中核を成すものです。

DPの科目概要では、コースを構成する3つの主要要素について説明します。

- I. コースの説明とねらい II. カリキュラムモデルの概要 III. 評価のモデル



I. コースの説明とねらい

DPの「美術」コースでは、生徒が自らの創造的かつ文化的な可能性と限界に挑戦することが奨励されます。思考を促すよう設計されたこのコースは、技法を習熟させ芸術作品の制作者としての自信を深めると同時に、問題解決と発散的思考における分析的なスキルを育みます。生徒は異なる観点と異なる文脈で美術を探究し比較することに加え、現代の芸術活動および表現手段と幅広く関わり、体験し、また批判的に振り返ることが求められます。本コースは、大学などで継続して美術を履修しようとする生徒、および美術を通じて人生を豊かにしたいと考える生徒を対象としています。

「美術」の教師の役割は、生徒の学習経験を積極的かつ慎重に構築することで、生徒の潜在力を引き出し、コース要件を満たす方向に学習を導くことにあります。生徒は、自主性、知識、スキルを兼ね備えた芸術家となるための力を身につける必要があります。

「芸術」のねらいは、以下の通りです。

1. 生涯にわたって芸術との関わりを楽しむ
2. 芸術の知識をもち、振り返りができ、批判的な立場から芸術を実践する人となる
3. ダイナミックに変化し続ける芸術の性質を理解する
4. さまざまな時代、場所、文化にわたる芸術の多様性を探り、その価値を理解する
5. 自信をもつ的確にアイデアを表現する
6. 知覚スキルおよび分析スキルを習得する

上記に加え、「美術」(SL・HL) は、以下の事項もねらいとしています。

7. 個人的文脈と文化的文脈に影響を受けた作品を制作する
8. 視覚文化とメディアについての知識を深め、批判的な鑑賞者および制作者となる
9. 作品概念やアイデアを伝えるためのスキル、技法、プロセスを習得する

II. カリキュラムモデルの概要

構成要素	推奨される授業時間数
文脈に沿った美術 <ul style="list-style-type: none"> 異なる文化的文脈の芸術家の作品を考察、比較する。 自身の作品および他者の作品に影響を与えている文脈について考察する。 調査、批判的思考、技法の実験というプロセスを通じて、芸術作品を制作する。 特定した技法を、自分が制作中の作品に応用する。 鑑賞および体験した作品や展示に対し、知識に裏づけられた反応を示す。 自分の作品の制作と展示に対する個人的な意図を形成し始める。 	50

美術の方法

50

- 作品制作のさまざまな技法に目を向ける。
- さまざまな技法が進化してきた理由と方法、また進化のプロセスについて調査、比較する。
- 多様な表現手段を実験し、作品制作の技法を模索する。
- スキル、技法、表現手段についての知識に裏づけられた複数のプロセスを経て、作品概念を発展させる。
- 現在制作中の作品が、意味と目的をどのように伝達するかを評価する。
- 「展示」の性質を考察し、作品を選択するプロセス、および自分の作品がさまざまな受け手に与える影響について考える。

美術のコミュニケーション

50

- 視覚的な手段と記述的な手段によるコミュニケーションの方法を模索する。
- 知識と理解を最も効果的に伝える方法について、芸術的な選択を下す。
- 振り返りと評価のプロセスを通じて、スキル、表現手段、作品概念の統合を示す一連の芸術作品を制作する。
- 展示用の完成作品を選択し、発表する。
- 複数の作品が互いにどのようにつながっているかを説明する。
- 芸術的判断が発表全体にどのように影響するかについて議論する。

コースの期間中、生徒には「美術ジャーナル」をつけることが求められます。美術ジャーナルの一部は、評価用に抜粋し、調整したうえで提出されますが、美術ジャーナル自体が直接評価されたりモデレーション（評価の適正化）の対象となったりすることはありません。ただし、美術ジャーナルの取り組みは、コースの根底をなす学習活動とみなされています。

III. 評価のモデル

「美術」コースを修了した生徒には、以下のことが期待されています。

1. 特定の学習内容についての知識と理解を示す。
 - 美術が制作され発表される種々の文脈を特定する
 - 異なる文脈から作品を説明し、制作者が採用した考え、表現手法、技法を識別する
 - 芸術に関係するスキル、技法、表現手段、形式、プロセスを認識する
 - 適切な芸術の言語を用いて、制作意図に即した作品を発表する
2. 知識と理解を応用し分析する能力を示す。
 - 視覚的なコミュニケーションを通して、作品概念、アイデア、意味を表現する
 - さまざまな文脈から芸術作品を分析する
 - 作品制作に関連するスキル、技法、表現手段、形式、プロセスについての知識と理解を応用する

3. 統合し評価する能力を示す。
 - 生徒自身および他者により制作された芸術作品を批判的に分析、議論し、また知識に裏づけられた自分なりの感想を明確に述べる
 - 自分の作品の意味がどのように受け手に伝えられるかを考慮に入れ、作品の計画、進行、制作についての自分なりの意図を形成する
 - 作業を進めるために、成功と失敗に焦点をあてて批判的振り返りを行ったことを示す
 - 作品制作がどのように展開したか、およびなぜそのように展開したかを評価し、生徒自身が視覚表現において行った選択の根拠を示す
4. さまざまなスキルと技法を適切に選択し、使用し、応用する。
 - 作品制作において、さまざまな表現手段、素材、技法を実験する
 - 作品制作において、イメージ、表現手段、素材、技法を適切に選択する
 - スキル、技法、表現手段、イメージ、形式、プロセスの使用と応用において、技巧的な能力を示す
 - 制作意図に即して完成作や習作を多数制作する

評価の概要

評価の種類	評価の形式	最終的な成績に占める割合 (%)
外部評価		60
比較研究	<ul style="list-style-type: none">• 少なくとも3つの芸術作品（そのうち少なくとも2作品は異なる芸術家の作品とする）について考察、比較した10～15個の画像ファイル• 使用した資料のリスト	20
プロセスポートフォリオ	<ul style="list-style-type: none">• 多様な芸術作品の制作活動において継続的に実験、探究、修正、改善を行ったエビデンスを示す9～18個の画像ファイル	40
内部評価		40
展示	<ul style="list-style-type: none">• 400語（日本語は800字）以内のキュレーターステートメント• 4～7点の芸術作品• 各作品についての説明キャプション（作品タイトル、表現手段、サイズ、制作意図を記入したもの）	40

IBについて：IBは、過去50年以上にわたり、質の高いチャレンジに満ちた教育プログラムとしての定評を築いてきました。国際的な視野をもって21世紀の現実の課題に対応することで、より良い、より平和な世界の創造に貢献していくことのできる若者を育成しています。

DPについての詳細および科目概要の一覧は、IBのウェブサイト (<http://www.ibo.org/diploma/>) でご覧いただけます。

『指導の手引き』の完全版は、IBのプログラム・リソース・センターからアクセスできるほか、IBストア (<http://store.ibo.org>) でご購入いただけます。

DPが大学での成功の素地づくりにどのように貢献するかについては、IBのウェブサイト (www.ibo.org/recognition) をご覧いただくか、メール (recognition@ibo.org) にてお問合せください。